

Title	森昌己さんの最期
Sub Title	Souvenirs de ses amis et collègues
Author	小瀧, 昭夫(Ogata, Akio)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2004
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. フランス語フランス文学 No.38 (2004. 3) ,p.10- 10
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10030184-20040330-0010">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10030184-20040330-0010</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 森昌己さんの最期

小瀧昭夫

2003年7月にご家族の方々と、日吉キャンパス来往舎にお見えになったとき、いつものようにひょうひょうとした姿でエレベーターのところで挨拶を交わし、奥様とご子息を紹介してくれました。研究室内の本の整理に見えたのかなと思ひ、にもかかわらず森さんの語気が強かったの憶えています。そして出口で擦れ違ったとき、いまプルーストを紹介するイタリアの学者の文章を訳しているので、日吉紀要に載せたい旨を切々としかし嬉しそうに語っているいつもの森さんがいました。あまりご無理なさらず、ご自分のペースで仕事してくださいと、励ましたつもりでした。2年前にご自分の健康状態を説明するときも、片方の肺がレントゲン写真に映っていないと、ひょうひょうと言ったのけ、抗がん剤を飲んでいるから髪の毛が薄くなってしまったと、包み隠さずおっしゃって、病気に毅然と立ち向かっている様子が窺えました。弱音を吐かず、悲しみも見せず、何事も無いかのように死をうけ入れておられる様子でした。そして一瞬一瞬を充実して生きているようにも見えました。本当は深い絶望を味わっていたのではと察して余りあるものがあります。ご冥福をお祈り申し上げます。

(アルファベット順)